

学校だより

学校だより 1月号

令和7年1月1日

発行者 外日角小学校

TEL 283-0040

一年の計は元旦にあり

校長 板井 雅春

明けましておめでとうございます。今年のお正月はどのように過ごされたでしょうか。「一年の計は元旦にあり」と言われます。「新しい一年を迎えるにあたり、その一年になすべきことを、年の初めの元旦にきちんと計画を立てる。そうすることで、その一年が有意義な一年になる。」という意味です。ご家庭でも今年の方針の話はされたでしょうか。ところで、この「一年の計は元旦にあり」の由来、誰が言ったのかについては、いろいろと説があるようです。その一つが中国の明代に憑慶京（ふうおうけい）が著した「月令広義（げつれいこうぎ）」という本です。中国の伝統的な年中行事やしきたりが解説されており、そのなかに「一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり」という一文が記載されています。晨は「あした」と読み、朝のことです。春は正月を意味しており、全体では、一日の初めである朝や一年の初めである正月にこそ計画を立てるべきだということです。なお、読みですが、一日は「いちにち」や「ついたち」ではありません。「いちじつ」と読みます。「一日の計は晨にあり」には、続きがあります。「一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」と続きます。全体を通しての意味ですが、初めに計画を立てることで日々の充実度が決まり、勤勉に働くことで一生が決まり、健康維持によって一家の行く末が決まるということだそうです。そして、もう一つは日本です。「三本の矢」で有名な毛利元就が「一年の計は春にあり、一月の計は朔（ついたち）にあり、一日の計は鶏鳴（けいめい）にあり」と長男の毛利隆元への手紙でそう書いたそうです。春は年初め、朔は月初めのこと、鶏鳴は一番鶏の鳴く早朝のことですから、これも「一年の計画は年の初めに、一月の計画は月初めに、今日の計画は朝に、立てなさい」という意味になります。どんなことも、最初の計画が肝心、しかも早くやったほうがいいという教えです。



さて、本日より3学期が始まりました。3学期は学年の締めくくりの学期であると同時に、新しい年のスタートでもあります。「一年の計は元旦にあり」、どんな小さなことでも「継続は力なり」「塵も積もれば山となる」です。自分の決めたことを根気よく1年間努力すれば、成果は現れるものです。3学期のスタートを機に、今年頑張ることを決めて取り組みましょう。

昨年より児童には、「3つの約束+1」を守っていこうという話をし続けています。「①話をしっかり聞く ②いいあいさつ ③協力・感謝 +自分の命は自分で守る」です。会釈を付けた「いいあいさつ」のできる児童が増えてきたことはとてもうれしいです。11月末に、お客さんが来校された際、「会釈付きのあいさつのできる児童が多くて素晴らしい」というお褒めの言葉をいただきました。もちろん、昼の放送で児童たちにも伝えました。これからも、さらにたくさんの児童が会釈付きのいいあいさつができるように、私自身もいいあいさつを続けていきます。



保護者の皆様、3学期も学校教育活動へのご理解ご協力をお願いいたします。